

## 令和6年度 第1回 大阪府子ども家庭審議会 大阪府子ども計画策定専門部会 議事概要

**日 時：**令和6年7月11日（木）10:00～12:00

**場 所：**大阪赤十字会館 401 会議室

**出席者：**奥野委員、長上委員、白砂委員、竹本委員、田畑委員、農野委員、廣崎委員、盛川委員、森田委員、山野委員（五十音順）

**概 要：**

[会議冒頭、委員紹介、部会長の互選、職務代理者の指定、大阪府子ども計画の骨子案（中間まとめ）の説明などを実施]

### **【議題】 大阪府子ども計画（素案）について**

■ 資料3 - 1・3 - 2について、事務局から説明

〈部会長〉

・計画では第2章にあたるのですが、大阪府の現状と課題についてという形で、計画の中で示されるデータについてご説明をいただきました。

・今お示しいただいたのは、大阪府全体のデータでございますが、第2回の部会では、市町村のニーズ調査の結果も出てまいります。私はどちらかというと、いろんな地域、自治体の事情もきつとあるかと思しますので、そういう市町村のニーズ調査の報告のときに、委員の皆様方にデータを見ていただいて、そのときにご意見をいただいても良いかなと考えているのですが、今説明いただいた内容について、ご質問ございますか。

〈委員〉

・資料の作り方なんですけども、スクリーンに投影されている資料とタブレットに格納されている資料とはちょっとズレが出ています。

・文字が被っていたり、グラフが見えづらかったりということがありますので同じものをお願いしたいということと、右下のページ数が隠れてしまうので、ページ数を真ん中に記載していただくとか、資料の○ページ、△ページとご説明いただいたときに我々で探すことができるよう、次回から資料作成にあたって配慮いただきたいと思います。

〈委員〉

・今、色々なアンケート調査の結果を聞かせていただいたが、一般的な結果かなと。首都圏との比較とかもありましたけど、それはそもそも大阪府として比較対象になり得るかどうかわからない。生活保護世帯が多いというのは大阪府としての課題としてよく全国で言われるところ。

・アンケート結果を踏まえて、何に重点課題を置いていこうというふうに考えた、その結果の分析というのはこれからということでしょうか。

〈部会長〉

・むしろこの委員の皆様方に、もう一度このデータを見ていただいて、そのデータの中に何か潜んでいるということを少し意識していただいて、今後、計画の中で示される様々な施策にもご意見いただけたらなと。

・私このデータを拝見していて、修正拡大家族、要するに何かあったときに相談に乗ってくださる親族がそばにいるという家族が若干増えてきてるっていうデータがありました。別に住んでいても何かあったときに飛んできてくれる。あるいはそれこそ何かあったときに、お祝いをくれるとか、そういう親族が若干増えているっていうのは強みだなと思ったりもします。そういうものは他府県に行ったら、もっとあるかもわからないですけど。ただ、色々な家族・地域がある中で、何か大阪の特徴みたいなものが出ているとするならば、それが強みであったり、あるいは課題であったりするのではないかと。

・今後、集めていただいているデータの中から、事務局でそういうものを精査していただけたらと思いますし、また私達の委員の意見も述べさせていただけたらなと思います。

・特に、今後、市町村のニーズ調査の結果が出てくると思いますが、府全体のデータがある中で市町村がどうなっているのかというのがありますし、またそのときにもう一度データをひっくり返しながらか、大阪府の現状について委員の皆様と議論していただけたらいいなと思います。データが膨大な量なので、今概略的にご説明いただいたという形です。

〈事務局〉

・今回、調査結果の方が膨大になっておりまして、まとめも作成しているところではあるんですけども、第2章1.～3.については、市町村のニーズ調査の結果も踏まえて、次回の部会にまとめを出させていただけようと思います。今のデータの中で気になるところとか、そこが大阪府の課題じゃないところがございましたら、ご意見をいただいて、またそれを課題や方向性に盛り込んでいきたいと考えております。

〈部会長〉

・この計画は大阪府が主体となって立てられるんですけど、各市町村の計画の上位計画になりますので、なるべく市町村のデータを見ながら、色々と考えていった方がいいのかなと。

〈委員〉

・直接子ども・子育てとは関係ないんですけども、就業率とかの数値が出ています。そういう場合は有効求人倍率も並行して載せるということが常です。就業率が上がっていて、有効求人倍率も上がっているというようなデータがあった方が説得力があるのではないかと思います。

・もう一点、「人材不足」という言葉の「人材」っていうのは優秀な人という意味なので、私達が不足してるのは「人手」である。そもそも優秀な人が不足しているのではなく、人がいないということが一番問題です。一般的に「人材不足」という言われ方をしてますので。その言葉を外せないということであれば、括弧して「人手不足」というようなことも入れていただければと思います。

・最後にもう一点だけ、小学校の不登校はどういう原因があるのかというようなことは、調査されてるのかされないのか教えていただければと思います。

〈事務局〉

・有効求人倍率につきましては、追記いたします。人材不足についても書きぶりを検討していきたいと思えます。

### 【議題】 子どもの貧困対策計画策定の方向性について

#### ■ 資料 4 について、事務局から説明

〈委員〉

・今、ご報告していただいた通りなんですけれども、**2016**年に子どもの貧困調査の**1**回目をされて、今回**2**回目だったんです。先ほどの報告と重なるところで言ったら、可処分所得の中央値というのがやはり上がっているんです。これは全国の傾向でも同様で、正規雇用が増えていたりとか、国のデータもそうなんですけど、収入額っていうもの自体は増えてはいる。これは大阪だけではなくて全体でもです。

・その中で、まず**1**点目は、やはり本人・家族が直接アクセスできるような、具体的にこんな支援が受けられるよってというようなことを選択できていくようなことを広く示していくことがいいんじゃないか、つまり、色々な企業とより連携してつながっていくということも大事じゃないかっていうことがあります。

・それから**2**点目は、居場所の話なんですけど、今ご報告していただいたように、ほとんどが平成**28**年と同じように、困窮層になればなるほど、例えば学力が下がるとか、遅刻が多くなるとか、色々なことの傾向は変わらなかったんです。つまり、困窮度によって差があるということが今回も明らかになったんです。

・ところが、居場所を利用するっていうところだけが困窮度に関係なく、大阪は他の自治体よりは居場所利用の数値は高い方なんですけど、それでも中央値以上の子どもさんと、困窮度が一番しんどいところの子どもさんとがあんまり変わらない。皆さん大体**8~10%**というあたりで利用率がそんなに高くない。本当は皆さんに支援が誰でも行ける場所であって欲しいし、色々な人と喋れるとか、広い意味でたくさんの人とつながれるっていうことは、全ての子どもたちにとって良いことですから、貧困世帯だけの問題ではない。

・それは共通してるんですけど、ただ、この子どもたちには、意欲の格差とか機会の格差とか、色々な格差があることが明らかなので、この人たちにやっぱり居場所につながるとか、色々な支援サービスにつながるっていうことがやっぱり必要じゃないか。これだけほどの困窮度であっても変わらない、利用率が変わらないっていうのが課題じゃないかということは議論になりました。

・最後**3**点目が、今日もぜひ大学生の皆さんにご発言いただきたいと思ってるんですけど、当事者からしたら、「相談」という看板じゃなく、もっと身近に自然につながっていくようなことが必要じゃないかっていうことも議論にはなりました。例えば、学生たちにアンケートで聞いたら**3**分の**1**の人たちが「相談」という看板じゃなくて、もっと自然に学校でつながるとか、届いていくような仕組みがあったら良いなと議論になったので、そういった自然につながっていくところをどのようにして作っていったらいいのかっていうことも議論になりました。

〈部会長〉

・子どもの貧困の問題は当事者の人格をどんどんと傷つけていくという大変な状況なので、ぜひこれは大阪府としても力を入れなければなと思います。

・孤立していくプロセスの中で、どんどんとそういう人的資源と切り離されていくことになり、当事者がパワーを失っていくことになります。その結果、自ら動けなくなり、声が出せなくなるというプロセスがあります。

・この問題は一般的な子育て家庭でもなかなか制度を知らないということがありますから、知っていただくための仕掛けってというのは大事な施策になっていくと思います。

### **【議題】大阪府子ども計画（素案）・ひとり親家庭等自立促進計画 構成素案 概要・社会的養育体制整備計画（仮称）の構成案について**

#### ■資料3－3・5・6について、事務局から説明

##### <委員>

・内容については先ほどご説明のあった通りでございますので、計画策定で今悩んでることを3点申し上げて、今後また皆さんからお知恵をお借りしたいなと思っています。

・一つ目は、ひとり親家庭の問題はやはり一番は親が貧困であるということなんです。親が貧困であるから子どもが貧困であるということ。特にシングルマザーの問題は、働いても貧しいということ。高い就業率などに貧しいというのが一番の問題なんです。この親の貧困、シングルマザーの貧困について、どのように対策を考えて、計画に生かしていけば改善するのかお知恵をいただきたいなと思っています。ですから、計画を作っても、痛いところまで手が届かないという歯痒さを感じています。

・二つ目は、大阪府は本当に色々な対策を考えられていて、市町村にも提案されてるんですけども、市町村の取組みにやはり温度差があるんです。アンケート調査の結果を見てもそうなんです、この市町村の温度差をどうなくしていくのかということも考えていくことがあると思います。

・それから三つ目は、対策を立てても、そこに届かない一定の層がいるんです。

ですから、メニューはたくさんあるけれども、そこに行き着くまでの距離が非常に遠いところをどうしていくかっていうと課題を感じています。

・局長が冒頭に実行性のある計画とおっしゃっておられましたが、まさしく実行性のある計画にしていくには何が必要なのかぜひご意見を賜りたいなというふうに思っています。

##### <部会長>

・社会的養育体制の整備に関して、昨今起きている子ども虐待の深刻な事案で、虐待をしている親が一体どこまで今後子どもを傷つけ付けるのかということを見極めるのがなかなか難しい場合があります。なので、いかに予防していくかっていうことを考えないといけない。

・社会的養育にある子どもたちを中心に、どうすれば予防していけるのか、そういう体制を作っていくことができるのかが必要ではないかなと思います。

・今日は本当に盛りだくさんの説明を事務局からしていただきまして、ほとんど時間がなくなってしまったんですけど、今日お示しいただいた資料はデータでそれぞれの委員の先生方に送らせていただいていると思うんです。今日ちょっと意見とか質問を出せなかった部分について、もしよろしければメールで事務局に送っていただいて、それを集約し、私も拝見しながら、取扱いとかを決めたり、あるいは皆さんに共有していくようなことを考えたいと思います。

##### <委員>

・アンケート調査の中で、子育てが不安、かわいと思えないといった結果がありましたよね。あれはやっぱりコロナが影

響しているのかなと思っています。コロナのときは、おじいちゃん・おばあちゃんに頼ることもできず、家族だけで子育てをしないといけない状況だったので、やはり子どものことをかわいいと思えなくなって当然だと思うんです。全てのことを家族・親だけでしないといけない。なので、そのことというのは忘れない、その感覚はなかなか消えないと思うんです。

・ましてや、初めての子育てがそれだけ切羽詰まった息苦しい経験だったということ踏まえた上での計画を立てないといけない・今までの感覚通りの子育て、子育てってこうだったからっていうになるとちょっと違うのかなというのが、私の今日のお話聞いての感想です。

#### <委員>

・資料 3-1 で小中高の不登校や中退のデータが出ていたかと思うんです。中学校から高校に移行すると、基礎自治体から大阪府に支援というか管轄が移行されることになり、いかに基礎自治体から、高校世代に上がっていくところの課題についてどのように府と基礎自治体で共有しながら、若者たちの育ちを支えていくかという仕組みをどう作るかっていうところがずっと気になっていて、そのあたりがどのように政策に反映されるのかっていうところを、またご意見させてもらいたいなと思っております。

#### <部会長>

・若い方々がキャリアを積み上げていく中で、さまざまな体験をしてこの世の中を生きていく知恵を獲得していく、そういうものがきつといっぱいあって、思春期の若い世代が生活範囲や体験を広げていくことは、その中の一つとして大事な要素なのかもわからないですね。

・ちょっと時間が過ぎてしまったんですけども、特にこれだけはこの場で伝えたいっていう方はいませんか。

#### <委員>

・不登校の話が出たかと思うんですけど、昔は不登校というと、いじめが原因であったり、学習がなかなかついていけないというのが原因が多かったですけども、今は子どもが学校に来られない理由っていうのがわからないケースが多いです。

・外部機関とか連携しながら、その生徒の見立てを立てたりとかして、なぜその不登校になってるかっていうことを考えたときに、やはり家庭の中での要因っていうのがすごくあるなと感じています。

・やはり子育てする難しさが、各家庭であって、なかなか相談しにくいとかっていうのもありますし、自分が育ってきた感覚と今の保護者・生徒との世代との価値観とか考え方の違いもあったりとかして保護者の方の不安定さもあるので、子どもの支援と保護者の支援を両立していかないと、なかなか不登校解消に向けて進まないっていうのが実態としてあります。

・そういう意味で、総合的に子どもを支えるとなったときに、親もそうですし、地域も含めて子どもを見ていかないといけないと感じています。

#### <部会長>

・不登校の事由としてどんな事由があるのかというご質問もありましたけれども、そもそも人間が生まれてくる段階で、生理的早産であると言われた。だからこそ、子どもがどんどん新しいものを社会や環境の中から培って、人間が進化してきたんだという議論もあるわけなんです。

・不登校というも定義が置かれていますが、実態は様々なんだろうなと思います。だからこそ保育所から幼稚園からこども園から小学校から中学校、高校で子どもが置かれている環境と子どもの状態を意識していかないといけないのかなと思います。

・5分程時間を超過してしまいましたけれど、第1回はこれで終了させていただいてもよろしいでしょうか。是非メールで様々なご意見をいただきますようお願いいたします。